

1995 めだか生息環境の消失



市の「第二千怒土地区画整理事業」によって「めだか」の生息していた小川は道路として埋め立てられることとなった。

1999 公園整備の約束とめだかの救出



これを知った千怒小学校児童らは市長を訪ね、めだかの保護を訴えた。新たに整備される公園にはめだかの棲息環境を創出することが約束され、千怒小学校児童、市役所、地域住民あわせて約100名が集まり、めだかの救出活動を行った。

2002 めだか池の設置



千怒小学校の水槽で育てているめだかを繁殖させるため、保護者協力の下、校舎の中庭にめだか池を作製した。徐々に水草も生え、コケも付き、めだかの棲みやすい環境が出来上がった。

2004 めだかの繁殖



以前から千怒小学校と交流のある地区内のグループホーム「千怒の杜」にめだかを放流し、入居者との交流を図った。池の建設にあたり、千怒小学校児童らは造園業者へめだかの生態観察記録などを伝えた。

2005 めだかの棲み家増設



校舎玄関側のグラウンドに2つ目のめだか池を増設した。前回同様、保護者の協力を得ながら作製したものの、今回は児童自ら進んで作業を行い、新たなめだか池が誕生した。

湧水めだか公園 一十年間に及ぶ保護活動の結実

福岡大学工学部 景観まちづくり研究室 柴田 久 / 石橋知也 / 上菌怜史 / 守田龍平
福岡市城南区七隈 8-19-1 092-871-6631 (6484) hisashi@fukuoka-u.ac.jp

市の区画整理事業によって「めだか」の生息していた小川が埋め立てられることを知った千怒小学校の児童らが、校庭にめだか水槽を自ら作り、また地域住民の協力を得て別の生息場所を確保するなど、めだか保護の継続的な取り組みを行ってきた。1999 年より始まったこの児童と住民のめだか保護活動は、市長そして市のまちづくり計画を動かし、めだかの棲める水路を併せ持った公園整備事業に結実した。公園の設計から完成までの過程では、児童と住民（大人）が世代を超えて話し合うワークショップ（WS）を重ね、園内の芝張りも自ら行った。公園の竣工式には十年前、保護活動に携わっていた、かつての小中学生も集い、めだかの放流が行われた。



The Chinu district carried out a land redevelopment project starting in 1995; a stream where the Medaka lived was filled in as a road. The students and Tsukumi City Hall workers moved the Medaka and the students also made a small pool for the Medaka in their schoolyard. A decade-long effort to protect the Medaka by the students and residents resulted in an ecological project creating a park where the Medaka could live. The students and residents discussed in the workshop and helped lay sod at the park. Celebration for Completion of the Medaka Spring Park was held with the participation of the people who began the movement to protect the Medaka ten years ago. The participants released the Medaka protected in other places.



2nd WS 「公園をつくるのに必要なことを知ろう」



千怒小学校児童（5、6 年生）及び地域住民は、専門家によるレクチャーを受け、公園デザインのポイントについて学んだ。そして、児童の生活動線・活動場所・内容を確認した。

2009 「公園周辺エリアの現状と履歴を確認しよう」 1st WS



地域住民（大人）は、専門家によるレクチャーを受け、公園デザインのポイントについて学んだ。また対象地とその周辺の現状と課題を把握し、『みんなの庭とって欲しい』など公園に対する要望も共有した。

2007 めだかの生態学習



千怒小学校では毎年 5 年生を対象として、「総合的な学習」の中でめだかの生態などに関する学習を継続的にを行い、地区のグループホームと公民館で年に 2 回発表会を行っている。

2008 めだかの引っ越しと更なる繁殖



グループホーム『千怒の杜』に放流されていためだかを児童自らすくい、地区内の別の場所へと移動させた。そしてさらなる繁殖を目指し、引き続きめだかの保護活動を行った。



□公園整備前の様子



□園内にそびえ立つ 10m の電柱



□津久見で採れる資源・石灰石



□庄迫感のある公民館壁面



□幅員 16m 道路による車の危険性



□津久見の特産品であるみかん

3rd WS 「現場を見て公園にとって大切なことを確認しよう」



実際に現場を訪れ、改めて感じた良い点・問題点を確認した。対象地は景観資源（みかん畑、彦岳、神社）に囲まれた場所で、それらを活かした場づくりが必要であった。また周辺の交通量についても確認した。

4th WS 「模型を使って最終設計案を確認しよう」



模型を見て最終設計案のポイントを確認し、気に入った点・気になる点について検討した。そして模型により、各グループで意見の確認・共有を行い、より良い公園づくりに向けて合意形成を行った。

2010 「公園づくりを手伝おう」 5th WS



これまでのWSを振り返り、その後実際の工事（芝張り作業）に全校児童が参加した。芝を張る行為により、公園づくりに関わったという記憶を残し、公園の愛着と完成への期待が向上した。

6th WS 「公園完成をみんなで祝おう」



10 年前にめだかを救出した千怒小学校卒業生など今まで関わった人々が集い、公園の竣工式を開催した。ここで 10 年間保護してきためだかを放流し、公園を地域一体となって守っていくことを約束した。





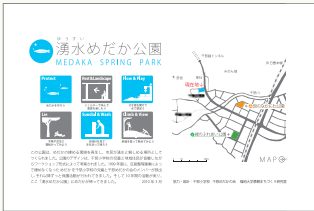
□水遊び場ではしゃいでいる子供達



□コンクリートベンチに腰掛けて子供達を見守る観覧



□公園内に設けられた駐輪場スペース



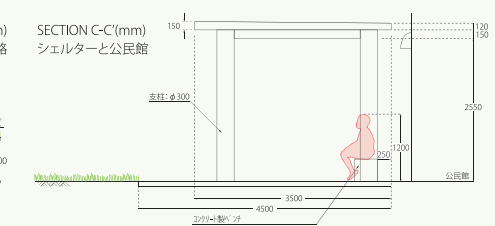
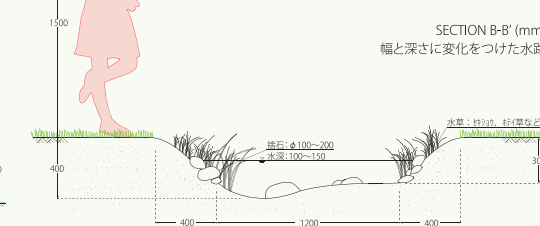
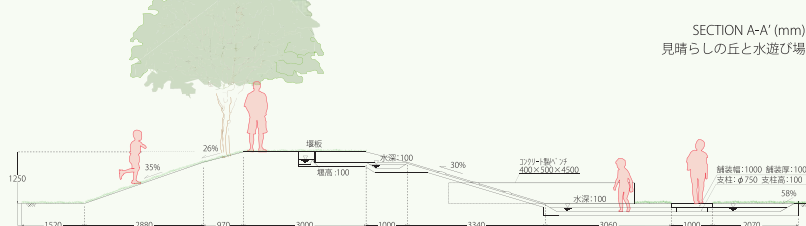
□公園に設置されたサイン



□園内を見渡せる見晴らしの丘



□日時計を取り付けた手洗い場



□園内を一望できるシェルター



□水深や水路幅に変化をつけためだかのたまり場



□座ったり寝転んだりできる芝生広場



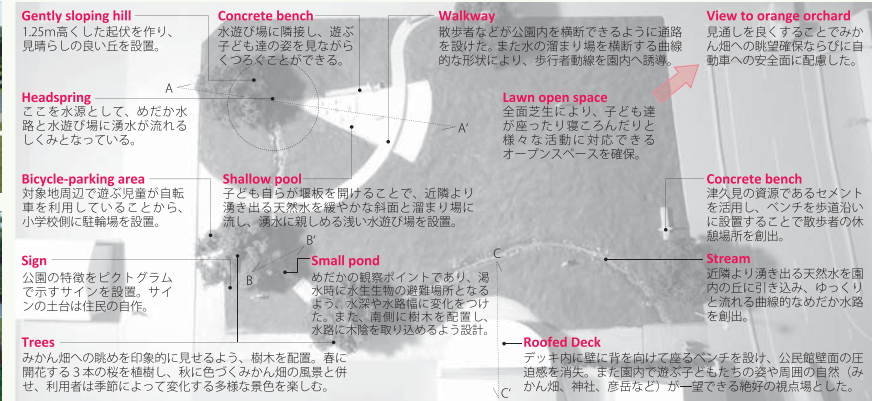
□樹木によるみかん畑への風景の印象化



□曲線的な園路と水遊び場



□園内をゆっくりと流れるめだか水路



□公園の構成要素とデザインの特徴